

# 省エネと人の健康、建物長寿化の重要性 ( 室温と床下・壁内湿度 )

【1】CO<sub>2</sub>排出量のうち、運輸・産業部門は低下しているのに比べ、建築部門は増加している (図1)

【2】日本の住宅ストックの断熱性能は低い (図2)

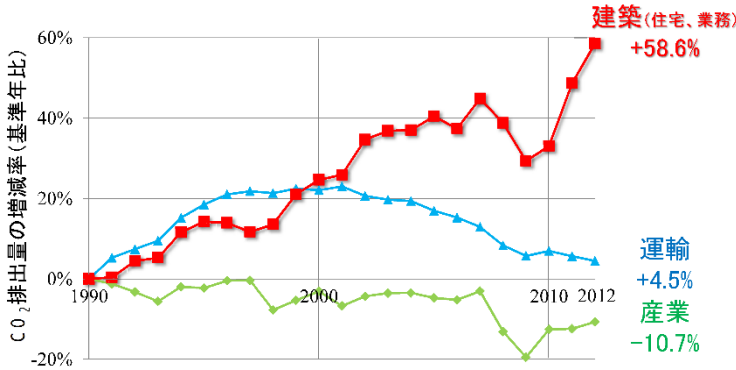


図1 日本の温室効果ガス排出量の推移(1990-2012)  
出典：国立環境研究所 温室ガスインベントリオフィス  
：日本の温室効果ガス排出データ(1990～2012年速報値)  
2013.11

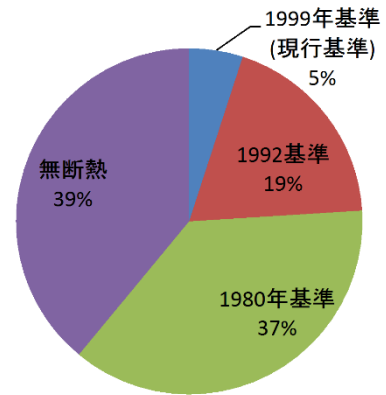


図2 住宅ストックの断熱性能(約 5,500 万戸)  
出典：国土交通省 住宅局調査、2012

【3】室温と健康

## 『 部屋間の温度差 』

断熱性能が低いと、居間などの南側の部屋と日当たりが悪く暖房設備のない北側のトイレ・浴室などの部屋間でおおきな温度差ができ、ヒートショックの原因となります。

ヒートショックとは、室温の急激な変化によって、血圧が急激に上昇・下降したり、脈拍が早くなったりするなど体に及ぼす影響のことで、これにより心筋梗塞や脳血管障害などが発生する事があります。東京ガス都市生活研究所によると、1年間にヒートショックが原因で亡くなる人は推定 14,000 人で交通事故死の死者よりも多いとされています。(図3)

参考まで英国保健省の室温に関する指針を示します。(図4)



図3 1年間の死亡者数比較  
出典：東京ガス都市生活研究

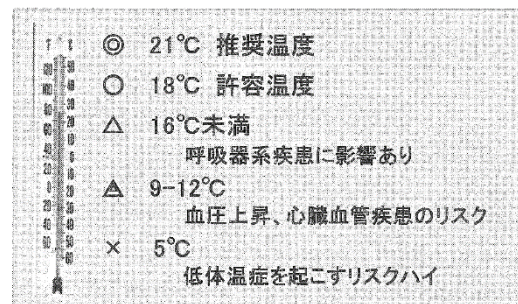


図4 室温に関する英国保健省の指針  
出典：U.K.of Department of Health  
：Annual report of the Chief Medical Officer  
2009, March 2010

## 『 人と建物の健康と床下・壁内湿度 』

断熱・気密・換気が不十分な住宅には、結露が発生することがよくあります。特に、北側の非暖房室内や床下・壁内で結露が発生することがあります。結露が発生すると、じめじめして不快であるだけでなく、カビやダニの発生源となり、空気質を悪化させ不衛生な室内環境をつくり出します。また、壁内の湿度によっては構造体が腐朽し劣化の原因にもなり、住宅の寿命を縮めることにもなります。